

愛寿会 たより

2 月号
第 176 号
平成 26 年
2 月 10 日発行



仁生園から望む甲斐駒

愛寿会仁生園回顧随想

仁生園 前園長 小尾 章臣

愛寿会仁生園に入所・利用者様は何処の施設よりも明るく元気で安心して生活を送られている容姿が見受けられ、ご家族様からも入所・退所時に当たり本当に良かったとの言葉を頂戴すること頻（しき）りです。これは愛寿会の役職員が一体となつて、日常より愛寿会のモットーと介護七つの誓いを思い、介護事業・業務に取り組みられている真摯な姿勢が結果に現われているのだと感じています。

私は長年地方行政に携わる仕事に従事していましたが、当時の小澤澄夫理事長からお誘いを頂き平成二十一年四月法人の事務局長として就任、園長退任まで通算四年間務めさせて頂きました。在任中は法人と仁生園等の長期短期に亘る課題を整理し、理事・評議員会にも図りながら対応してきました。その一例は「愛寿会規程集の整備」「派遣職員の直接雇用への切換え」「専門職員雇用の確立」「職員資格取得研修」「介護報酬改定に伴う財政基盤の確立」「痰の吸引等に関する介護職員の

技術講習会」「職員給与制度の改善」等様々で未解決の課題も多く後任者に引継ぎすることとしました。

愛寿会仁生園は県下の民間福祉施設第一号として過日創立四十周年を迎えました。開設来より多くの入所・利用者様を初め、社会福祉事業に詳しい優秀な役員スタッフ、業務に精通した職員にも恵まれ、時代の趨勢（すうせい）と共に歩まれてきた歴史が今日の仁生園に繋がっています。又、現在愛寿会の事業運営においては、北杜市からの指導協議を受けるとされていますが、実情仁生園特別養護老人ホーム入所待機者は四百余人となり、各種事業運営の推進に当たつても北杜市において愛寿会仁生園は無くしてはならない施設として位置づけられています。

これからも引続き役職員一同が愛寿会のモットーと介護七つの誓いを思い、愛寿会仁生園が益々発展をし、地域社会との共同と貢献ができる事業の推進にも努められるよう期待をするものです。

仁 生 園

書き初め

一月二日（木）、新年の書き初めを行いました。皆様それぞれ文字を考えながら、「お正月」や今年の干支である「午」、また、一年の目標を書いている方もいました。

一文字一文字丁寧に書き「難しいな」と話されながらも、とても楽しそうに取り組まれていました。上手に書いてもご本人が気に入らず、何枚も挑戦されている方の姿もあり「さすがだな」と思いました。最初は上手に書けるか不安だった方でも、書き始めるととても真剣で、また、書き終わってからの達成感と笑顔が素敵でした。

カルタ大会

一―四班では年明けの一月五日に、大勢の利用者が参加され盛大に「カルタ大会」を開催することが出来ました。

職員が札を読み上げると、利用者様みんなでカルタを捜しながら「あったよ」「その札は違うよ」「今のはお手付きだよ」など皆様仲良く行い、一番少なかった利用者様が「もう一回やろうよ」と言われ、二回戦を行うなど参加者全員笑顔で楽しくお正月行事の「カルタ大会」を行う事が出来ました。これからも利用者様皆様が笑顔で楽しくやるレクリエーションで充実した生活が送れるように努めていきます。

繭玉（まゆだま）作り

単調になりがちな施設での生活の中で、季節感を味わっていたりたくために、利用者様が昔からやってきた行事を多く取り入れています。

一月十五日の小正月に各地で行われる「どんど焼き」。その中でも養蚕が盛んであった東北の地で馴染深い「繭玉作り」を今年も行いました。

ピンク、黄緑、白と三色の上新粉をこね丸め「バラの木」にさし、フロアに飾りました。丸めながらのお味見も御愛嬌。作業を進めながら、幼い頃の思い出話が次々と出て来ます。この

模擬喫茶

新しい年を迎え初めての「模擬喫茶」のメニューは、「たい焼き」「何種類かのケーキの盛り合わせ」「ババロア」「あずきとかぼちゃゼリー」でした。「たい焼き」は、月によって「今川焼き」と姿を変えますが、目の前でアツアツに焼いてくれるので、視覚と臭覚を刺激され、毎回一番人気です。

ゼリーは、利用者様の好きなあずきとかぼちゃを使い色合いがとってもきれいでした。ケーキの盛り合わせも豪華で、サンプルを目の前にして迷われる方続出でした。

風邪や感染症の流行りやすい季節のためか、今回は会場となる「いい」まで来てくださる利用者様の数が少なく、かわりに「ババロア」等嚙下困難な方も召し上がれる物をフロアまで持ち帰るケースが多く見られました。季節や体調により仕方ないことですが、「いい」から見える四季の山々の雄大な姿をゆっくり眺めながら、紅茶と共に好みのお菓子をゆっくり味わっていた



繭玉を焼いて食べる。これから一年健康で過ごせるという通説の他に、虫歯にならないという言われは今年初めて伺いました。

最後に砂糖醤油につけてみんなで味わいました。



だく時間を多く持ちたいと思います。



グループホームやすらぎ

一月五・七日の二日間、今年も北杜市小淵沢町の「高福寺」へ初詣に出かけて来ました。

寒い日でしたが、皆様百八個の鐘を鳴らし、今年一年元気に過ごせますよう、健康・家族の平穏・無事を祈願して手を合わせて参りました。



デイサービスセンターレク紹介 『風船バレー』

風船バレーは、風船バレーボールとも呼ばれており、老若男女を問わず参加できる球技で単純明快なルールのため、身体障害者や車椅子の利用者も楽しめる、老人ホームやデイサービスなどでのリハビリテーションやレクリエーションに用いられることが多くなっているようです。

仁生園デイサービスセンターで行われている風船バレーのルールは至ってシンプルで、コートにネットを張り、互いのチームが風船を地面に落とさないように、手や腕・足を使って打ち合いをするという、バレーボールそのものの形式を採用しております。特徴は大き目のゴム風船をボールに使い、視覚障害者がいれば風船の中に鈴を入れて、障害の有無にかかわらず、全ての人がボールにタッチできるようにしています。ラリーが続くと利用者



者の皆様、全員が笑顔になります。又、風船にタッチしようと張りに高く挙がらない方でも知らず知らずの内に、腕が上に高く挙がるというすばらしい効果もみられます。

第二仁生園

二〇一四 山梨・人ねっこアート展

一月二十九日山梨県立美術館で開催された「山梨・人ねっこアート展」を見に行ってきました。

このアート展も今年で3回目になり、絵画・工芸・陶芸など二〇〇点を超える作品が展示されました。

園では年間を通じ作品活動を行っています。第一回目から出展をし、毎年恒例の作品展となっており、今回は八名の利用者様の絵画作品を出展しました。

額縁に展示されたご自身の作品に感激の様子で、時間も忘れ他の作品もひとつひとつ熱心に鑑賞され、「色使いが綺麗だね。」「細かく書いてある絵で凄いなあ。」「作品制作の参考になった」と感想を話していました。



感謝

平成二十六年一月一日

平成二十六年一月三十一日

愛寿会・仁生園・第二仁生園へのご協力ありがとうございました。

いつもご協力をいただき心から感謝申し上げます。今後とも利用者の皆様に、よりご満足いただける施設運営を目指し役職員一体となって誠心誠意努めて参ります。

何卒、これからもご支援のほどを、また、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら、お礼状に替えさせていただきます。

金員・物品のご寄附

- ・北杜市 甲陵中学校 様
- ・三鷹市 山本 美根子 様

ボランティア活動

- ・レクボランティアほがらかグループ 代表 吉田 道子 様
- ・レクボランティアゆずつこの会 代表 佐野 恭子 様
- ・北杜市 うたなかま八ヶ岳 様
- ・北杜市 保坂 多枝子 様
- ・北杜市 井上 早智子 様
- ・北杜市 三村 明子 様
- ・北杜市 原田 勝子 様
- ・北杜市 青柳 昭次 様

愛寿会後援会へのご協力

- ・北杜市須玉町 宮崎 良幸 様
- ・南佐久郡川上村(故) 由井 つきみ 様
- ・北杜市小淵沢町 進藤 柏男 様
- ・北杜市長坂町 清水 長治 様

甲陵中学校様から

一月十六日(木)北杜市 甲陵中学校の先生及び生徒会の方々が来園され、タオル・石けん等を頂きました。たくさんの方々の厚意に感謝し、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



口腔ケア指導研修会

大泉診療所歯科医師のご協力のもと、定期的に入所者様全員が歯科往診を受けています。

一月二十八日(火)は、口腔ケアの知識としてドライマウス(口腔乾燥症)の症状と対応について講義を受けました。

また、ケアプランへ反映出来るアセスメントの新しい様式についても提案していただき、今後活用していきます。



社会福祉法人愛寿会

後援会役員会のお知らせ

- ・日 時 平成二十六年二月二十一日(金) 午前十時
- ・場 所 仁生園 会議室
- ・議 題 平成二十六年後援会事業計画 平成二十六年後援会当初予算 その他

来園の皆様

手指の消毒をお願いいたします

- 感染症胃腸炎やインフルエンザの感染拡大を防止するために、左記の項目にご配慮くださるようお願いいたします。
- 一、ご面会は、午前九時から午後五時の間としてください。
 - 二、出入口は、正面玄関をご利用ください。
 - 三、ご面会の際には、マスクを着用してください。
 - 四、正面玄関に消毒液を設置しています。手指を丁寧に消毒してください。
 - 五、来意を事務室に必ずお伝えください。その際、体調不良の方や入所者様の状態によっては面会をご遠慮いただくことがあります。

愛寿会サービスへのご意見・ご要望や施設見学等の希望がありましたら左記までご連絡ください。

仁 生 園 電話 05551(32) 3340
 第二仁生園 電話 05551(32) 8270